



瀬戸内ギャラリーの企画展が始まります！

瀬戸内ギャラリー第8回企画展

無料

「高橋克夫民俗写真展 -瀬戸内の景観・暮らし・ひと-」

1 会期 令和5年 **1月4日** (水) ~ **3月19日** (日)

開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日(ただし月曜日が休日の場合、その翌日)

臨時休館 2月13日(月)~2月17日(金) ※資料整理等のため

2 会場 瀬戸内海歴史民俗資料館 第1展示室中2階「瀬戸内ギャラリー」
(高松市亀水町1412-2 五色台山上)

3 主催 瀬戸内海歴史民俗資料館(香川県立ミュージアム分館)

4 趣旨

当館開館時(昭和48年[1973])の民俗専門職員であった高橋克夫が、長年にわたり撮影した高度経済成長後の瀬戸内海やその周辺地域の景観、生業、暮らし、祭りのようすを紹介します。

高橋は、1977年に国の重要有形民俗文化財の指定を受けた「瀬戸内海及び周辺地域の漁撈用具」の収集に尽力するとともに、瀬戸内海を中心とする各地の民俗事象を撮影した膨大な数の写真を残しました。高度経済成長の過程で大きく変貌を遂げた民俗文化にまなざしを注いだ高橋の写真は、たいへん存在感のあるものとして見る者に迫ってきます。その一方で、写真に写し出された風景は、人が生業を通して自然に働きかけ生み出した風景の力に高橋が魅せられたという側面もあったように思われます。

高橋が歩き、カメラを向けた場所に赴くと、土地開発の進展によりその風景が完全に喪失した場所や、環境変動や人口減少による過疎化などにより漁村がかつての活気を失い、荒廃化した場所も多くあります。高橋の写真は人と自然の関係性について、現在の社会を見つめ直し、あるいは社会の在り方を考える上で、いくつかの気づきを我々に与えてくれます。

5 展示構成

- ① 漁村の風景
- ② 瀬戸内海の漁業
- ③ 外洋や淡水の漁業
- ④ 海辺の商い
- ⑤ 瀬戸内の暮らしを支える船
- ⑥ 瀬戸内の船大工・櫓屋
- ⑦ 瀬戸内海の海の祭り
- ⑧ 島や海岸部の農業

(裏面に続く)

6 展示資料・作品数 パネル写真34点、民具・調査ノート・プリント写真・写真集等約10点

7 関連行事

① れきみん講座「民俗写真に写し出された海辺の生業の風景」

日 時 1月21日(土) 10:00~11:30
講 師 真鍋 篤行(当館専門職員)

② れきみん講座「高橋克夫民俗写真からわかること」

日 時 2月4日(土) 10:00~11:30
講 師 田井 静明(当館専門職員)

①、②の講座ともに

場 所 瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室

定 員 24名(先着順)

申込方法 **【要予約】**電話でお申し込みください。 瀬戸内海歴史民俗資料館 TEL 087-881-4707

申込期間 1月4日(水)から、定員になり次第終了

8 主な展示資料



広島県草津の漁港とカキ船



ため池のウナギカキ漁(旧白鳥町・現東かがわ市)



タイシバリ網漁(旧庵治町・現高松市)



荘内半島での除虫菊栽培

【申込み・問合せ先】 瀬戸内海歴史民俗資料館 TEL 087-881-4707

〒761-8001 高松市亀水町1412-2 FAX 087-881-4784

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/index.html>

